



和洋タイプコテージがリニューアルオープン

舟形若あゆ温泉のコテージ(和洋タイプ)3棟が内外装の改修工事を終え、装いを新たに、3月19日から宿泊の受け入れを再開しました。

今回の工事では、キッチンを明るく開放感のある作りにしたほか、和室に読書や仕事をする事ができる場所を設けるなど、利便性の向上が図られました。

なお、改修した3棟を含め、すべてのコテージやふれあい広場等では、高速Wi-Fiを無料で使用することができます。残雪が融け春の息吹が感じられる静かな森の中のコテージで、ゆったりした時間を家族や友人と過ごしてみませんか。



舟形中学校卒業証書授与式

3月16日、舟形中学校で卒業証書授与式が行われ、横田政美校長先生から卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。卒業生たちは、恩師や友人、後輩との別れを惜しみながらも、思い出がいっぱいの学び舎を巣立っていきました。



大きく育ててね

3月7日、舟形ほほえみ保育園の園児31名が、サケの放流を体験しました。放流したサケは、令和3年10月25日から11月7日にかけて、小国川に遡上してきたサケを捕獲し管理施設でふ化させたものです。

放流は令和4年2月18日から実施しており、これまで53万尾を放流しました。今回の保育園児の放流で今年度最後となり、約6cmに成長したサケ5万尾が大海に向けて旅立ちました。放流したサケは海洋で成長し3から4年後に小国川に戻ってきますが、小国川への回帰率は0.5%と厳しいですが、無事に戻ってきてほしいですね。



全国町村議会議長会副会長に就任

2月8日、全国町村議会議長会第73回定期総会において、舟形町議会八鍬太議長が全国町村議会議長会副会長に選任されました。町村議会議長の全国的連合組織の当議長会では、町村議会の要望をまとめて国に働きかける要望活動のほか、町村議会に関する調査や研究、町村議会議員や事務局職員に対する研修や活動支援などを行なっています。また、八鍬議長は令和3年12月3日に山形県町村議会議長会会長にも就任されています。



若あゆ温泉がリニューアル

2月8日、舟形若あゆ温泉が機械室および配管等の大改修工事に伴う3週間の休業を終えリニューアルオープンを迎えました。当日は、オープンに向けて試作が繰り返された新メニュー「トマトリゾットとチキンステーキ」が食堂に登場したほか、甘酒などが来場者に振る舞われました。オープンを待ちわびていた方々は、一足早い桃の節句に彩られた館内と、温泉やサウナを満喫していました。

若あゆ温泉の指定管理者である株式会社舟形町振興公社の伊藤代表取締役からは「長い間お客さまにはご不便をおかけしておりましたが、こうやって多くのお客さまが今日の日を心待ちにしてくれていたことに感謝するとともに、今後も皆さんに、愛される施設を目指して職員一同がんばってまいります。」とのことでした。今年度は3棟のコテージ(和洋タイプ)や炊事場等の改修工事も行われ、温泉だけでなく、周辺施設もあわせてこれまで以上に魅力的な施設に生まれ変わります。心身のリフレッシュを兼ねて舟形若あゆ温泉を利用してみてはいかがでしょうか。





目指せ自己ベスト

1月28日、舟形小学校でスキー記録会が開催されました。小学校統合以来行われてきたこの記録会も9回目となります。この日のために子どもたちは、天気の良い日はもちろんのこと、前が見えないような吹雪の日も、自己記録更新に向けて練習を積み重ねてきました。

記録会当日も、時折吹きつける吹雪の中で、子どもたちは特設のスキーコースを駆け抜けました。保護者の方々からの温かな拍手に後押しされながら、一人ひとりが持てる力を十分発揮することができました。



豪雪対策本部を設置

1月19日時点での積雪深が、堀内地区(西又観測地点)で173センチメートル、長沢地区(野観測地点)で145センチメートルとなり、舟形町豪雪対策本部設置基準の150センチメートル(西又で200センチメートル)に達することが予想されるため、雪による事故や被害を未然に防止するため「舟形町豪雪対策本部」を設置しました。



舟形町消防安全祈願祭・出初式

1月9日、毎年恒例の舟形町消防団の安全祈願祭が中央公民館で行われ、今年1年の無事故・無火災を祈願しました。その後、消防団員の士気高揚を目的に行う出初式については新型コロナウイルス感染症対策の一環で部長以上を対象とし、規模を縮小して行われました。加藤嘉久団長は「コロナ禍であっても安全安心な町づくりに努めましょう」と訓示しました。



舟形小学校で新春書初め

1月7日、舟形小学校で新春書初めが行われました。「新春の光」などの学年ごとのお題を一字ずつ真剣に書き上げ、一人ひとりの気持ちがこめられた書初めとなりました。今年の干支は「壬寅」年で、厳しい冬を越え、春の芽吹きとともに声明に満ち溢れ、華々しい年となるとされてきます。



無病息災、家内安全を願って

12月中旬から1月中旬にかけて、町内各地で「御柴灯(おさいとう)」が行われ、各地域の方々が今年一年間の無病息災、五穀豊穰、家内安全を祈願しました。御柴灯では正月に使われた門松やしめ飾り、書初めや祈禱札などを燃やし、その炎が高く燃え上がるほど願い事が叶えられると言われています。皆さんの願いが叶うといいですね。



本を通じて子どもたちの成長を

12月5日、町中央公民館で舟形町読み聞かせボランティア連絡協議会(会長 阿部弘明さん)の「愛の鳩賞」受賞記念式典が開催されました。この賞は、公益財団法人山新放送愛の事業団と山形新聞、山形放送が主催する長年福祉活動に献身的に従事された個人・団体を讃える顕彰です。

同協議会は15年に渡り、町内の小中学校と保育園を週1回訪れ、読み聞かせを通じて子どもたちが本と触れ合う機会をつくりだしている功績が称えられました。



ひかるちゃんと人権を学ぶ

12月3日、舟形中学校で新庄人権啓発活動地域ネットワーク協議会主催の人権講演会が行われました。講師の千田やすし氏は「子どもの人権いっしょに考えよう」のテーマのもと、中学生にこの道40年以上の腹話術の業を交えながら、身近にある人権問題や人とのコミュニケーションの取り方などについて、子どもをとりまく多くの問題をいっしょに考える講演を人形のひかるちゃんといっしょにユーモアたっぷりに分かりやすく講話していただきました。参加した中学生からは「人の気持ちを知る上で、『心に耳を持つ』ことが大切と学べました」と感想がありました。



ゲンキー介護予防教室

12月1日より、毎週水曜日に舟形町福祉避難所「てとて」を会場に「ゲンキー介護予防教室」が始まりました。この教室では、介護予防に関する情報等を広く皆さんに知ってもらい、いつまでも健やかに地域で過ごせるように介護予防の充実を図ることを目的としています。初回の1日には午前・午後の部合わせて30名ほどの方が参加されました。この教室については、事前申込不要、祝日以外の毎週水曜日に開催していますので、ぜひご参加ください。(12月29日は年末年始のためお休みです。)



弁当の日講演会

11月28日、町中央公民館で「弁当の日」発案者である竹下和男氏を講師に招き、「子どもを台所にたたせよう～弁当の日で何が育つか～」をテーマに講演会が開催されました。これは、舟形町母親委員会が主催し、保小中の親や中学生生徒など45名が参加しました。講演では、子どもが弁当作りを通して思いやりや感謝の気持ちが育まれることや、将来親として子どもを育てるときの大切な事などを実践や経験を交えながら話してくれました。参加した生徒や親からは「涙が溢れ出るお話でした。大切なことを改めて気づかされた」と感想がありました。



新庄税務署長賞受賞

11月24日、舟形中学校の伊藤大空さん(幅)が中学生の「税についての作文」において新庄税務署長賞を受賞しました。この賞は国税庁および全国納税貯蓄組合連合会が共催で、将来の優良な納税者の育成、税についての関心や理解を深めるために実施しています。伊藤大空さんは「租税教室の授業で税金の使い道を知ったことをきっかけに、税について興味をもちました。この作文を通して税金に対する理解を深めることができました。」と感想がありました。



つや姫生産の神に選ばれる

11月17日、県産ブランド米「つや姫」の食味を競う「つや姫おいしさの神コンクール」が村山市のクアハウス基点で開催され、豊岡学さん(長者原)が2位の称号シルバーマイスターを受賞しつや姫生産の神に選ばれました。このコンクールはつや姫のさらなる評価向上を目的としており、受賞された豊岡学さんは「自分の作ったものが評価されて光栄です。来年もがんばりたい。」と話していました。



除雪安全祈願祭

11月10日、町道の除雪作業の安全と事故防止を願う除雪安全祈願祭を十二河原河川公園で行いました。大型のロータリ除雪車や除雪ドーザなど合わせて15台がずらりと並ぶ中、各工区の運転手、現場管理者の丸充建設株式会社と株式会社齋藤工務店、機械整備関係者を代表して寒河江重車輛株式会社、株式会社新庄いすゞサービス工場、町関係者ら合わせて36名が参列し、安全を祈願しました。今年度も冬の舟形町の安全安心な交通の確保をよろしくお祈りします。

Old Kyu News(令和3年11月)



農業ビジョン策定会議

11月8日、第2回舟形町農業ビジョン策定会議(委員長叶内栄一さん)が開催されました。次世代の農業経営を担う若手農業者や女性農業者が委員の中心となって、舟形町の農業総合戦略としての策定を進めています。会議では、今後の取り組みとして、

- 1.米のブランド化への町独自ルールの設定について
- 2.農産物の品質向上や安全性の向上に向けて取り組むGAP認証について
- 3.女性労働者が妊娠中および出産後も安心して働くことができる環境の整備などについて

意見が出されました。今後、皆さんからいただいた意見を基にビジョン案が作成され、町長へ手渡される予定です。

Old Kyu News(令和3年10月)



さくら回廊植樹式

10月30日、旧堀内小学校跡地において第26回最上川さくら回廊舟形町会場植樹式が開催されました。秋晴れの空のもと、堀内地区の全町内会や応募抽選により同地区にゆかりのある家族やグループが大勢集まりました。子どもから高齢者まで多くの方々が参加し、きれいな花が咲くように願いを込めながら15本のオオヤマザクラの植樹を行いました。今後は芝生を張り、周辺住民が集う憩いの広場として町と地域住民が共同で整備する予定で、参加者は早く花見ができることを待ち望んでいました。



めがみちゃん給食

10月28日、舟形小学校と舟形中学校で、日本一の給食食育推進事業として、町出身の高橋正伸シェフ考案の中華料理の給食が提供されました。この日のメニューは「地鶏とマッシュルームの ホイル包み焼き」「春雨と野菜の和え物」「スーラー湯」「ごはん」「りんご」で、地元食材のはえぬき、じゃがいも、地鶏、ねぎ、白菜、マッシュルーム、大根が使われています。児童たちにも大評判でおいしい給食に笑顔があふれていました。



めがみ学習発表会 & 舟友祭

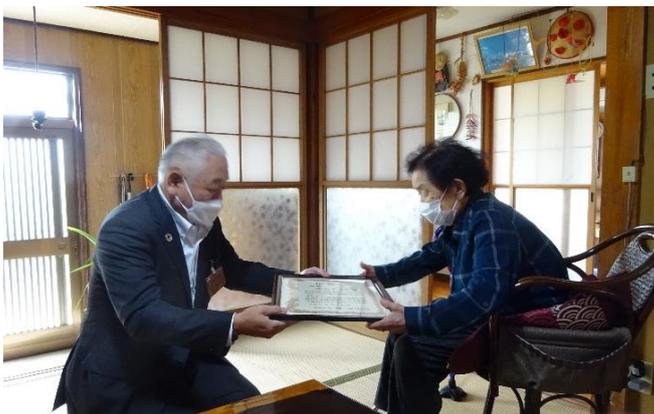
10月30日、舟形中学校で舟友祭が開催されました。新型コロナウイルス対策として、ZOOMを使い、合唱発表会をその場にはいない保護者が閲覧できる態勢や、タブレット・電子黒板を使つての総合発表など、さまざまな場面でデジタルを活用していました。

10月24日、舟形小学校でめがみ学習発表会が開催されました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策として自分の子どもの発表時のみの観覧となりましたが、保護者の方やその子どもたちの移動と換気がスムーズに行われました。来年度こそは演劇や太鼓の発表を皆さんにお見せしたいです。



連携プレーで人命救助

10月18日、グラウンドゴルフ大会中に倒れ心肺停止状態になった男性を救護したとして、最上広域市町村圏事務組合消防本部より大場茂春さん(長沢)を含む最上地域の男女6名に感謝状が贈られました。次のホールに移るまでの待機中に突然意識を失い倒れた男性の容体を確認し、救急搬送を要請。救護班の方が心臓マッサージやAEDを使った心肺蘇生を行い、男性は搬送前には自力呼吸ができるまで回復しました。奥山敏明消防長は「みなさんの連携と行動力によって尊い命が救われたことが何より素晴らしい」とその行動を称えました。



健康長寿を祝う

10月5日、町内で数え88歳の米寿を迎えられた方を祝うため、町長が各家庭を訪問し賀詞を贈呈しました。町長からは、永年にわたり町の発展に尽力されたことへの感謝と祝福の言葉が贈られました。賀詞を受け取った皆さんは、「これからも元気に長生きできるようにがんばりたい」、「100歳目指してがんばりたい」とおっしゃっていました。皆さんの健康長寿をお祈りします。

Old Kyu News(令和3年10月)



新幹線で特産の鮎をお届け

10月1日、県とJR東日本グループが主催し、地域の特産品を首都圏のみなさまに楽しんでいただくため、県内では初の試みとなる列車を活用した荷物輸送が行われました。今回は、10月1日に小国川漁業協同組合と株式会社舟形町振興公社の協力のもと町の特産品の鮎を新幹線にて東京駅へと輸送しました。新幹線による高速輸送とプランテックインターナショナル株式会社の鮮度保持技術を活用し、高鮮度の状態で魚介類の輸送が実現しました。ウィズコロナという状況下で、この取り組みは全国のみなさまへ舟形の魅力をお届けする新たな手段の足掛けとなることでしょう

Old Kyu News(令和3年9月)



最上総合支庁長との意見交換会

9月30日、町福祉避難所「てとて」で令和3年度最上総合支庁長等との意見交換会が開催されました。これは、町と県（総合支庁）が最上地方の発展方向について共通の認識に立ち、地域の発展に資する施策をより効果的に展開するため、共通した課題への対応および今後の方向性について意見交換をするもので、毎年開催しています。今年度は、舟形町から挙げた新型コロナウイルス感染症や農業振興に関する事項など7つの議題について、率直な意見交換を行いました。

町から挙げた議題は次のとおりです。

◆議題

- 1.男女共同参画社会の推進に係る取り組みについて
- 2.最上広域婚活実行委員会について
- 3.9月以降の新型コロナウイルスワクチン接種事業について
- 4.災害時における新型コロナウイルス感染症に係る感染者や濃厚接触者の把握について
- 5.農林水産業の各種制度の多様化および複雑化に伴う対応について
- 6.情報端末を活用した授業づくりの推進のため、知識とスキルアップの研修実施を
- 7.35人学級の中学校への拡充を



鳥獣被害対策用電気柵設置研修会

9月13日、堀内字本堀内地内において令和3年度鳥獣被害対策用電気柵設置講習会が行われました。これは、近年増加するイノシシによる農作物被害を軽減することを目的として、舟形町鳥獣被害防止対策協議会が主催したもので、株式会社サージミヤワキの滝沢氏を講師に迎え、地元農業者および認定農業者計9名が参加しました。

当日は電気柵の有効性や正しい設置方法について学び、地域ぐるみで被害防除対策を行う意識の向上につながりました。

近年、クマやイノシシといった野生鳥獣の目撃情報が全町的に広がっており、農地だけでなく、住宅地での目撃情報も増加しています。そのため、野生鳥獣の対策は農業者のみならず、「地域ぐるみ」で行う必要があります。また、野生鳥獣による被害は「捕獲」だけで減少することはありません。地域内に未収穫の果樹や野菜等の残渣や安心できる隠れ家があれば、野生鳥獣にとって住みやすい場所となり、繰り返し出現します。

町では、国が提唱している野生鳥獣対策を推進していくために次の3つの活動を行なっています。

- 生息環境管理：農作物被害調査、生息状況調査
- 被害防除：電気柵の導入支援、追払花火講習会、被害対策に係る研修会の実施
- 有害捕獲：舟形町鳥獣被害対策実施隊の活動支援



あそびの広場

9月8日、子育て支援センターみらい(福祉避難所内)では、あそびの広場が行われました。

画用紙の羽根にさまざまな色のシールを貼り、目玉部分はぐるぐると大きい目や、優しい目などが書き込まれて個性豊かなトンボが出来上がりました。

出来上がったトンボを手に持ち、『とんぼのめがね』の歌に合わせて室内を元気に走りました。子どもたちは作ったトンボを見せ合ったり、遊んだ後はうれしそうにお家へ持ち帰りました。

あそびの広場では、月に2回簡単な手作りおもちゃや季節のあそびなどを予定しています。ぜひ遊びに来てください。



セーブメディア運動

9月1から7日のセーブメディア運動週間にあわせ、舟形中学校3年生の佐藤美羽さん(舟形第3)が、防災無線で同運動を呼びかけました。

これは、テレビやゲームの時間を減らし、家族団らんの時間を増やすことや、メディアとの賢い付き合い方を考えることが目的です。

防災無線で子どもたちが直接呼びかけるのは、今年度で3年目になります。佐藤さんは、「緊張しましたがハッキリと話すように心がけました。家族や友だちともセーブメディアの取り組みをがんばりたい」と話してくれました。



農業ビジョン策定会議

8月18日、舟形町農業ビジョン策定会議(委員長叶内栄一さん)が開催されました。

本ビジョンは、町の農業における政策課題の解決に向け、目指すべき将来像を検討し、施策を計画的に推進することを目的に、舟形町の農業総合戦略として策定するものです。

次世代を担う、若手や女性農業者が委員の中心となっていて、舟形町の農業の将来のあるべき姿や「儲かる農業」の推進に向け議論を進めていただく予定です。



地域おこし協力隊が見たふながた

8月17日、町中央公民館で第1回大人塾が開催され、22名の塾生が参加しました。

この日は開講式に続き、元地域おこし協力隊2名と現地域おこし協力隊1名によるシンポジウムが開催されました。

3名は、協力隊の赴任地として舟形町を選んだ理由や、着任して感じた舟形町の魅力と課題について、分の体験談を交えながら話してくれました。

参加した塾生たちからは、外からの視点による新たな気づきの大切さや、まちづくりに必要な魅力の再発見について意見交換が行われました。



各地で夜空に花火が咲く

8月に入り、富長地区、堀内地区、沖の原町内会、一の関町内会で花火が打ち上げられました。この花火は、連合町内会や町内会、地区の有志の方などが主催し打ち上げたものです。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により祭りや行事なども自粛となり、今までとは違う夏となっています。そんな中、打ち上げられた花火は例年以上にきれいに咲き、観覧者を魅了していました。



シルバー人材センター地域貢献活動

8月16日、公益社団法人新庄最上地域シルバー人材センター阿部孝行副理事長および八鍬力也班長を中心とした、舟形班の10名のみなさんから、地域貢献活動の一環として舟形町老人いこいの家清流荘の草刈りを行なっていただきました。

このボランティア活動は、毎年行なっていたいでいます。暑い中でのボランティア活動、本当にありがとうございました。



忠魂碑で平和を祈念

8月15日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」として、猿羽根山の忠魂碑前で追悼式が行われました。

遺族会の解散に伴い、昨年度から新たな形での追悼式となり、当日は森町長をはじめ八鍬町議会議員、菅原副町長、伊藤教育長が参加。

先の大戦で亡くなられた方々に対して黙祷や献花、追悼の言葉により哀悼の誠を捧げるとともに、世界の平和を願いました。



夏の思い出づくりに

8月8日、山形県B&G海洋センター連絡協議会の主催で、マリンスポーツ&クリーンフェスティバルが行われました。この事業は、親子の交流や夏休みの思い出づくりを目的としています。

この日は、舟形町、大蔵村、酒田市平田から40名の親子が集まり、酒田市平田ヨット・カヌー場でカヌーの体験や清掃活動を楽しみました。今年は少人数での活動でしたが、子どもたちには最高の1日となったようです。



園児たちがじゃがいも収穫

8月4日、舟形ほほえみ保育園で年長児30名によるじゃがいもの収穫が行われました。

子どもたちは、大きく育ったじゃがいもを一つひとつ丁寧に土の中から掘り出していました。収穫したじゃがいもは、今後子どもたち自らが皮むきをして、給食のカレーの具材となる予定です。

自分で植えて、収穫した大地の恵みをおいしくいただける日が待ち遠しいですね。



コロナ収束を願うお焚き上げ

8月4日、舟形町西ノ前遺跡公園女神の郷にてコロナ収束を願うお焚き上げが開催されました。

高校生ボランティア「ふなっ子」が主体となり、町内の方から募集したコロナ早期収束の願いを書いた用紙を、古来の縄文文化の風習にならって女神の火をおこし、祈りを捧げ、お焚き上げを行いました。

この火は各市町村から採火された火とともに、県内でひとつに集められ、東京2020パラリンピックの開催都市へと集められ聖火となります。



宇宙から米づくりを見える化

7月15日、一の関地内の水稲のほ場で稲生育管理システムの利用講習会が開催され、このシステムを利用している水稲農家8名が参加しました。

このシステムは、衛星から取得した稲の生育状況データをタブレット等で見ること、客観的な肥培管理を行うことができるもので、米の高品質化を図る町独自の取り組みです。

今年度から自身のほ場を見ることができるアプリを開発導入したこともあり、利用者は40名を超えています。

この事業は「ふるさと納税」を財源として「地域の活力あるまちづくり」をすすめるために取り組んでいる事業です。



児童交流、リモートで開校式

7月5日、舟形小学校の5年生31人と、世田谷区立代沢小学校、山崎小学校の5年生がリモートによる交流を行いました。

これは、例年行なっている世田谷区との児童交流が、コロナ禍により今年度も往来中止となったことを受けて開催したものです。

今回は第1回目の交流「開校式」という位置づけで行われ、短い時間でしたが電子黒板の大画面を通して3校の様子をそれぞれ紹介しました。今後も同じようにリモートで交流を行なっていく予定です。



親子でスポーツゴミ拾い

7月4日、山形県民河川・海岸愛護デーにあわせ、舟形町母親委員会および美しい山形・最上川フォーラム主催の「親子でスポーツゴミ拾いinふながた」が開催されました。

これは、町の保小中母親委員会が、親子で楽しみながら町や河川をきれいにしようと企画したもので、「ゴミ拾いはスポーツだ」の掛け声を合図に、23組64名の親子が分別しながら河川のゴミ拾いに汗を流しました。



セーブメディア週間

7月3から9日のセーブメディア運動期間にあわせ、舟形小学校6年生の阿部立さんが、防災無線で同運動を呼びかけました。

これは、テレビやゲームの時間を減らし、家族団らんの時間を増やすことや、メディアとの賢い付き合い方を考えることが目的です。防災無線で子どもたちが直接呼びかけるのは、今年度で3年目になります。

阿部立さんは、「緊張したけど、ハッキリと話すように心がけました。友だち同士でもセーブメディアの取り組みをがんばりたいです。」と話してくれました。

Old Kyu News(令和3年7月)



鮎釣り防犯パトロール

7月1日、鮎釣り解禁にあわせ防犯パトロールが行われました。

これは、町防犯協会(会長伊藤準悦さん)が毎年鮎釣り解禁日や鮎釣り大会時に、車上荒らしなどの犯罪被害を防止するため行なっているものです。

この日は、防犯協会の連絡員や町駐在さん、新庄警察署職員の計21名が参加。最上小国川沿いをパトロールし、鮎釣り客に注意を呼びかけました。



鮎釣り解禁

7月1日、最上小国川の鮎釣りが解禁となりました。直近の雨量が少なく当日は平常時より水かさが少ないコンディションの中、県内外から100名以上の太公望が集まり、竿から伝わる鮎の感触を楽しんでいました。

今年は、小国川漁業協同組合により4,000キログラムの稚鮎が放流されたほか、小国川の清掃や鮎を将来に受け継いでいく活動も行われています。

天然鮎の遡上は例年よりも遅れていますが、雨が降り石垢の状態の好転に伴い、20センチメートルを超える鮎も釣れました。鮎釣りは10月まで楽しむことができます。

Old Kyu News(令和3年6月)



電気柵設置安全講習会

6月15日、堀内字後山地内において、イノシシによる農作物被害を軽減するための電気柵設置安全講習会を開催しました。

地元の農業者である小野満さんと荒澤広光さんが講習会に参加し、電気柵の設置や管理方法について学び、小野さんの水田に300メートルの電気柵を設置しました。今後の被害軽減が期待されます。

Old Kyu News(令和3年6月)



舟形インターおよび駅前清掃

6月13日に、沖の原町内会(会長稲毛巧さん)と青少年育成推進委員(委員長高橋勤さん)とボランティアサークル「ふなっ子」の計36人が沖の原インターチェンジ付近を中心に草刈りとゴミ拾いを行いました。

また、同日舟形駅構内の清掃も行いました。

舟形町の玄関を清掃したことで、来町された方や利用者を感じよく迎えます。ありがとうございました。



高校生ボランティアふなっ子保育園訪問

6月7日、ボランティアサークル「ふなっ子」のメンバー5人が舟形ほほえみ保育園を訪問しました。

園児たちと一緒に鬼ごっこや砂遊び、ブランコなど、たくさんの遊びを通して触れ合いました。

暑い中でしたが、走り回って汗だくの園児たちに水分をとるように声をかけるなど気を配る姿も見られました。

新型コロナウイルス感染症対策のため人と触れ合う機会が減ってしまった中で、「ふなっ子」のメンバーと園児たちにとって楽しく貴重な時間となりました。

Old Kyu News(令和3年5月)



舟形小学校稚鮎放流教室

5月26日に舟形小学校の2年生27名が、小国川漁業協同組合が管理する中間育成施設「小国川漁協稚鮎センター」で、5から7センチメートル(約8グラム)ほどに育った稚鮎約5,000匹を小国川に放流しました。

小国川漁業協同組合では小国川の37カ所へ4,000キログラムを放流しました。

1日で約1グラム成長する鮎。7月1日の鮎釣り解禁の日までに天然鮎とともに大きく成長し、釣り人たちを楽しませてくれることでしょう。



舟形小学校田植え体験

5月25日に、舟形小学校の学校田で同校の5年生31名が田植えを行いました。

児童は「児童交流をしている世田谷区の小学校に送れるようにがんばって植える。秋の稲刈りがとても楽しみ。」と一生懸命田植え体験に取り組みました。

児童の皆さん、秋の収穫に向けておいしいお米が実るように田んぼの管理もがんばりましょう。美味しいお米を届けられるといいですね。



祝 数え年100歳

5月24日、今年数えで100歳を迎えられた齊藤ハル子さん(内山)へ、町から長寿褒章が贈られました。

令和3年5月現在、100歳を迎えた方は13名となりました。齊藤さんは、お昼と夕方のご飯は、自分で料理をされるそうです。

また、日中は手押し車を使って散歩をし、近所の方と話すのが日課とのことでした。今後ますますのご長寿をお祈りします。



最上小国川集中クリーンアップ大作戦

5月12日から2日間、県、舟形町、最上町、小国川漁業協同組合などから組織される最上小国川清流未来振興機構と山形県建設業協会最上支部の皆さんがボランティアで河川のごみ拾いをしました。

これは、最上小国川の環境美化とイメージアップを図ることを目的としています。

最上町班と舟形町班が、各2班の合計4班延べ136名で河川付近のごみ拾いを行い、約2.5トンものごみを回収しました。



笑顔と安全・安心のため

5月12日、舟形町民生児童委員協議会が、舟形小学校と舟形中学校で朝のあいさつ運動を実施しました。

これは毎年5月12日の「民生委員・児童委員の日」に合わせて行なっているもので、この日から1週間が「活動強化週間」となっています。

町民の皆さんの笑顔、安全、安心のために、民生委員・児童委員の活動を強化していきます。

Old Kyu News(令和3年5月)



地域とともにある学校づくり

5月12日、第1回学校運営協議会・保小中一貫教育推進委員会が中央公民館で行われました。

学校運営協議会制度(コミュニティスクール)は学校と地域をつなぎ、多様な関わりをもって子どもたちを育もうという取り組みです。

この日は地域の皆さんと保護者、教職員24名が出席。保小中の今年度運営方針について承認したあと、「学校が抱える課題に地域や家庭がどう関われるか」というテーマで話し合いをし、活発な意見交換が行われました。

Old Kyu News(令和3年4月)



野球の振興と発展のために

4月28日 株式会社沼澤工務店(社長 沼澤貞義さん)から「舟形中学校野球部のOBとしても、野球の振興と発展のために活用してほしい」と舟形中学校に野球等で使用する防球ネット用フレーム9台が寄贈されました。

今回寄贈されたものは底面に車輪をつけた設計で、従来二人がかりで運んでいたものが、一人で運べるようになり、より安全で効率的な練習が可能となりました。



町の災害対策のため寄付

4月27日、舟形調剤薬局より救急バッグ6個を町に寄付していただきました。

各指定避難所と福祉避難所、防災センターに設置し、利用者の安全安心のため活用させていただきます。

ラッキーバッグ株式会社大橋一夫会長は、「災害等を想定してさまざまな備えをすることが必要。町の災害対策に少しでもお役に立てれば」と話していました。

災害時の対策として、救急バッグには、衛生処置用品など13種類が入っています。



第1回 町内会長会議

4月23日、令和3年度第1回町内会長会議が、福祉避難所「てとて」で新型コロナウイルス対策のもと行われました。

町内会長と町長、副町長、教育長、各課長、社会福祉法人舟形町社会福祉協議会職員が参加し、町から町内会へのお願いや事業等についてのお知らせと、意見交換や質疑応答が行われました。

第2回町内会長会議は11月に、町の雪対策や除雪計画の確認と協力依頼などの説明を予定しています。